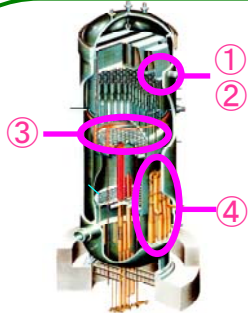


# 福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成25年12月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した冷温停止を維持しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

## 2号機の原子炉内構造物の点検が完了しました

- 当所2号機において、東北地方太平洋沖地震等による影響に関する知見の拡充を目的として、以下の①～④の原子炉内構造物（昨年実施した4号機の点検結果や2号機の特性を踏まえて選定）について、11月21日～12月18日にかけて点検を行いました。
- その結果、対象の原子炉内構造物に異常はありませんでした。
- 点検は、原子炉上の作業用台車から、原子炉内等にある点検対象物まで水中カメラを吊り下げて行いました。
- 台車上では、熟練した作業員がモニターに写る映像を目視で確認しました。また、撮影した映像については、事務所においても再確認を行い、最終的に対象の原子炉内構造物に異常はないと評価しました。



【原子炉圧力容器】

### ①蒸気乾燥器耐震用ブロック（4箇所）

凹型を逆さまにしたような部材で蒸気乾燥器側面中央部に溶接され、蒸気乾燥器支持ブラケットの上にはめ込み、蒸気乾燥器を支持するためのもの

### ②蒸気乾燥器支持ブラケット（4箇所）

原子炉圧力容器の内壁に溶接されている棒状の板で蒸気乾燥器耐震用ブロックをはめ込むことで、蒸気乾燥器を支持するもの

### ③上部格子板グリッドプレート（4箇所）

板状のものを格子状に組み合わせたもので、炉心シュラウド上部にボルトで固定し燃料集合体の横方向の支持等をするもの

### ④炉心シュラウド支持ロッド（4箇所）

応力腐食割れ対策として2・3号機に設置している機器で炉心シュラウドを上下方向に挟み込み、締付け固定する支柱



作業用台車上での点検作業の様子  
（平成25年12月13日撮影）



炉心シュラウド支持ロッド  
（平成25年12月11日撮影）

## 原子力防災訓練（緊急時演習）を行いました

- 当所では、平成25年12月3、4日、延べ約710名の所員が参加し、原子力事業者防災業務計画※1等に基づく原子力防災訓練を行いました。
- 訓練は、原子力災害発生時の事態の収束・復旧に向けた対応を確認するため、年1回実施しており、今回より、米国の危機管理機関も採用している現場指揮に関するマネジメントシステム※2の考え方を導入しました。
- 訓練は、福島県沖で震度6強の地震が発生し津波が襲来、外部電源や冷却機能等が喪失した状況を想定し、実動訓練等を行いました。
- 今後、訓練について評価、改善を行い、非常時の対応能力を高めます。なお、当日は、原子力規制庁が立ち会っており、そうした外部からの評価も取り入れていきます。



緊急時対策本部の様子



現場（原子炉建屋周辺）でのルート確認



原子炉建屋送水口への消防ホース接続



電源車からのケーブル引き出し

※1 原子力災害対策特別措置法に基づき、原子力災害の発生および拡大の防止、ならびに原子力災害時の復旧に必要な業務等について定めたものです。

※2 米国の災害・事故現場等における、非常事態対応のために標準化された組織体制であり、運用面において、指揮命令系統や役割分担が明確化されていることや、全組織レベルでの情報共有が効率的に行われる等の特徴を有しており、現在では多くの政府・行政機関や軍、消防、警察等の機関で採用されています。

## 危険体感教室が開催されました

～実際に危険を体感することで、安全意識を高めます～

- 平成25年12月16日、当所と協力企業がメンバーとなり安全に関する取り組みを推進している安全推進協議会が、作業員の安全意識の向上を目的として、当所構内で体験型の「危険体感教室」を開催しました。
- 当日は、当社約40名、協力企業約70名、計約110名が参加し、回転する工具に手（模擬）が巻き込まれた場合や、安全帯を装着した状態で宙吊りになった場合などを体験したり、また、そういった場面を目の当たりにして、多くの参加者がその危険な状態を実感している様子でした。
- このような作業場の身の回りに潜む危険を実際に体感し、ちょっとした不注意が引き起こす事故を再認識することで、日常的に行っている作業に潜む危険の予知に役立っています。



危険体感教室受講の様子



回転工具による巻き込まれ体感



安全帯ぶら下がり体感



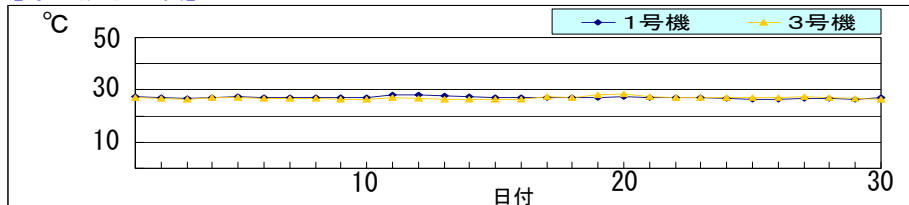
重量物による挟まれ体感

## 【プラントデータ】

### 燃料の冷却状況（11月分）

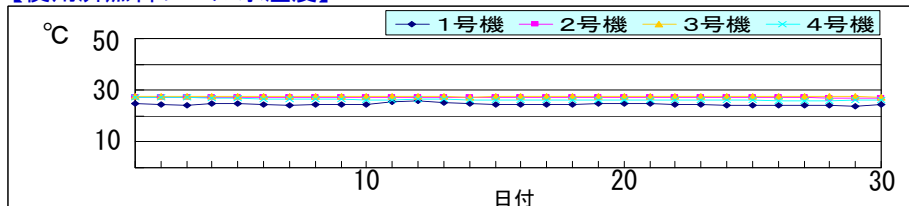
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

#### 【原子炉水温度】



2号機は平成25年10月16日までに、4号機は平成24年10月24日までに原子炉内から764体の燃料すべてを取り出し、使用済燃料プールへ移動しました。

#### 【使用済燃料プール水温度】



発電所敷地境界付近の空間放射線量率（1時間あたりの放射線の量）については、当社ホームページをご覧ください。

<当社ホームページ><http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>

## 第34回安全大会が開催されました

- 当所では、協力企業の方々と一体となり安全推進協議会を設置し、日頃から、作業現場の安全パトロールを行い、現場で確認された危険情報の共有などをはかっています。
- それら1年間の活動の総まとめとして、安全意識の高揚ならびに1年間の安全活動を顕彰するため、平成25年12月17日、当社約40名、協力企業約60名、計約100名が参加し、「安全大会」が開催されました。
- 安全大会は、今回で第34回を数え、今年1年、無災害を達成した企業（33社）や安全活動に貢献した安全功労者（3名）に対する表彰、代表者による安全宣言、参加者全員による安全スローガンの唱和などが行われました。
- 毎年年末に開催し、発電所で働く全員を対象として1年間の安全活動を顕彰することで、新年に向けて安全意識を高めました。



各種表彰



安全スローガンの唱和

福島第二原子力発電所は、引き続き安定した冷温停止を維持してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ  
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時